



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：中川博夫 副会長：唐澤千明 幹事：池上幸平

 <p>世界へのプレゼントになろう</p>	<p>2015-2016 国際ロータリーのテーマ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world</p>	<p>2015-2016 RI会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン スリランカ</p>	
<p>第1341回 例会 平成28年2月2日(火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 池田幸平ソングリーダー

■ ゲスト・ビジター紹介 ・米山記念奨学生 沈昱東 様

■ 会長談話 中川博夫会長



2月は「平和と紛争予防／紛争解決月間」です。私たちは、ロータリー財団を通じてロータリー平和センターを支援し、世界理解と平和を実現し、人々の間に寛容と協力の精神を広めるよう努めています。

ロータリー平和センターは世界6か国7校の大学と提携し、平和研究、紛争解決、国際関係、国際開発対策、ジャーナリズム、環境問題、公衆衛生、教育、行政学などを学び、平和構築に必要とされる専門知識とスキルを養う機会を提供しており、毎年、最高100名のフェロー（学友）を支援しています。

フェローの進路はさまざま、草の根で活動する地元のNGO（非政府組織）、各国政府、軍事、警察をはじめ、国連、世界銀行、国際移住機関、米州機構といった二カ国間組織や国際組織でも活躍しており、平和構築に専念するフェローたちの世界的ネットワークは発展の一途をたどっています。平和センターで養った知識とスキルは、世界各地の地域社会で平和と紛争解決に向けた活動を実施するための力となっています。

ロータリー平和フェロー奨学生第9期生として、英国のブラッドフォード大学で学んだ冨田佳代さんのメッセージを一部紹介します。

大学の頃から、開発途上国の貧困や紛争、人種差別、感染症といった問題について学び、将来に渡り、国際協力という分野で活動をしていきたいと思い、ロータリー平和フェローに応募しました。

英国に留学する前は、NGOスタッフや青年海外協力隊として、南部アフリカのボツワナ共和国やカリブ海のジャマイカ国にて、HIV/エイズの予防教育プロジェクトに従事しました。英国のブラッドフォード大学では、これまでの開発途上国での現場経験を活かし、「アフリカの紛争解決と平和構築」を専門に研究しました。

在学中は、HIV/エイズの問題は勿論のこと、アフリカの紛争問題の1つである、子ども兵士の問題に興味を持ち、卒業論文では、子ども兵士の社会復帰について研究しました。また、在学中に2か月間、アフリカ西部のシェラレオネでインターンシップをする機会をいただき、卒業論文のフィールド調査をすることができ、大変有意義な経験となりました。大学院での学術的な研究に加え、紛争後の国で実務経験を積むことができたのは、私にとって大きな自信となっています。

9期生は、全員で10名でしたが、様々な国籍と経験を持つ仲間たちに恵まれ、実際に、紛争を体験したことがある同期もいたため、彼らの立場からみた紛争と平和構築の視点はとても興味深いものでした。

卒業後は、日本国内で、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の難民支援活動のための広報・募金活動をするNPO団体で勤務しています。難民問題の解決は、平和構築において、非常に重要な要素の1つです。国内からの後方支援にはなりますが、今後も、ロータリー平和フェロー卒業生として、世界平和に貢献することができるよう努めていきたいと思いをします。

最後に、このような貴重な機会を提供して下さったロータリアンの皆様に心より感謝申し上げます。留学中も、ホストカウンセラーをはじめ、地元のロータリアンの皆様に大変お世話になりました。どこのクラブでも、社会奉仕の精神に溢れるロータリアンの皆様ととても楽しい時間を過ごすことができました。ロータリー平和フェローとして、ロータリアンの皆様と出会えることができたことをとても嬉しく思います。

以上です。

■ 伝達式 国際ロータリー会員表彰担当チームより、
新会員を推薦した井上修会員に認証品が贈呈されました。



■ 慶 祝 2月誕生日祝い ・田中洋会員 ・平澤理会員 ・水谷今朝弘会員



■ ニコニコボックス

- ◆中川博夫 コメントは特にありませんが・・・本日もよろしくお願ひ致します。
- ◆池上幸平 1月27日に娘が女の子を出産しました。3,400gあり自分によく似た美しい人になると思います。
- ◆伊澤和男 いよいよ周年事業実行委員の発足です。お世話になります。有意義な一年になりますようご協力をお願いします。
- ◆矢島宏 本日PM4:00より伊那西高校にて出前講座があります。職業奉仕委員会の皆さん出席をお願いします。小川先生本日もよろしくお願ひ致します。
- ◆井上修 1月は残念ながら出席出来ませんでした。皆さんに会えないと人格が著しく落ちる事が分かりました。心を入れ替え今月は2回出ます。
- ◆唐澤千明 リオオリンピック、サッカー出場が決定しました。決勝戦0-2からの逆転は私達に勇気を頂きました。

■ 幹事報告 池上幸平幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告



・伊澤和男会長エレクトより、創立30周年記念事業実行委員会発足の件・次年度地区補助金申請の件・新たな青少年奉仕事業の件について説明がありました。

■ 出席報告

会員数37名 出席免除会員7名 長欠会員2名 本日出席者23名 事前メイク3名
出席率81.25% 前回出席率 修正なし

■ 理事会報告 池上幸平幹事

1. 新たな奉仕プロジェクトについて
2. 創立30周年記念事業実行委員会組織案について
3. 2016-17年度ロータリー財団地区補助金事業について
4. 2月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
5. その他

■ 全員協議会 クラブの目標「これからのロータリー」

・支援留学生制度の歴史について 小向誠一会員



今から24年ほど前、伊那RCから分かれて間もない頃、伊那中央RCでは、独自性が高く地域に密着し長く継続できるであろう奉仕プロジェクトを模索していた。それが伊那中央ロータリークラブ留学生支援制度である。

その時に、アジアの貧しい国々から信大へ来て学びたいという若者が多くいることを知った。太平洋戦争で日本はアジアの諸国に苦痛と迷惑を掛けてきており、そのお詫びの気持ちもあって、これらの学生を支援することを奉仕活動にしようと思った。奨学金の原資たる基金は年会費に上乗せして確保し、平成5年に2名の奨学生を採用したのがスタートだった。その当時は一人に年額48万円を支給していた。

以来23年間に亘り、会員から年会費とは別に一人15,000円を拠出してもらった総計1,638万円を原資として、40名の支援留学生を世に輩出し今日に至っている。

・これからのロータリーについて全員協議 中川博夫会長



伊那中央RC独自奉仕プログラムとして信大農学部留学生支援制度があり、皆さんから毎年1万5千円徴収し、年間42万円を奨学金として支給しています。この制度の経緯は小向会員の話のとおりなのですが、歴史を知らずして今後は語れない、合意形成しベクトルを一致させようとの思いから本日の例会を設けました。全員協議会の形を取っていますので忌憚の無い意見を出してください。

1. 何を目的にしているのか良く分らない？
2. 支援留学生との交流について
3. 奨学金の額について
4. 支援の方法について

国際奉仕委員会事業として行っているのも、委員会に所属したことの無いメンバーには分りにくいところがあると思いますが、「今までやってきたから」というだけの理由で行う継続事業ほど無意味なことはありません。第三者の視点だろうが、希望的観測だろうが、何でも良いので、事務局 (TEL.76-5858) までご意見・ご要望をお寄せ願います。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

- ・2月7日(日)～8日(月) 親睦旅行(山梨方面)
- ・2月16日(火) 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店
クラブフォーラム(ロータリー財団)